

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171800905		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム草加		
所在地	埼玉県草加市長栄2-20-1		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地しており最寄りの新田駅から徒歩約20分、清門町バス停から5分の場所に当施設グループホーム草加があります。日々の施設犬の散歩を通して近隣住民の方々との交流もあり、自治体での催事、防災訓練、クリーン作戦、夏祭り、お正月には近くの長栄神社へお参りをするなど地域に根ざした取り組みをしています。又、地域包括支援センター、民生委員の連携も取れ色々な情報収集による情報の共有化、安心、安全で家庭的な雰囲気作りに努め気軽に訪問に立ち寄れる施設となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念に基づいたケアの実践には、まず職員が理念を理解することが必要である為、職員には、理念という言葉、「考え方」や「気持ち」というわかりやすい言葉に置き換えて説明する工夫をしている。その結果、理念が浸透し、職員からは「利用者の気持ちを受けとめることを大事にする」との声が随所で確認できる。また、利用者の気持ちに寄り添うことは、喜びだけでなく、時には自分の感情を抑えて対応しなければならないが、その気持ちを職員同士が気付き、お互い支え、協力し合う環境ができています。そして、上の立場の者も、職員の困っている様子に気づき、気軽に声をかけ、話を聞いている。お互いを思う配慮は、利用者と思う細やかな気持ちにもつながっている。利用者は、寒い冬でも天日に干された布団、湯たんぽで温まった布団等いつも人の手を介した温かさの中で眠ることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念」を玄関フロア・事務所に掲示し、職員がいつでも確認・認識できるようにしている。また、理念に基づき、フロアごとに目標を定めるなど、管理者と職員の方向性の統一も行えている。	理念は、職員で話し合い、事業所独自の物を作成した。毎日の申し送りで読み上げて理念に触れる機会を作り、理念を「気持ち」や「考え方」という言葉に置き換える事で理解し、実際にケアに活かせるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、催し物に参加したり、施設犬の散歩を通して、利用者も近所の方との会話を楽しんだりと日常的に交流がある。	犬を飼っており、地域の方と犬の散歩を通じた馴染みの関係ができています。自治会の防災訓練に、地域の一員として利用者が参加したり、ボランティアとの交流等から、街中で声をかけてもらえるようになった。	地域の中で、グループホームが果たす役割を考えて周知し、地域の人々とのつながりが更に深まることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、近隣の方達を招いて防災訓練を行ったりする事で、グループホームや認知症の方々を理解して頂き、良い関係が築かれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・ご家族の他、地域包括民生委員さん等の参加で交流も広まり、多種多様な意見を聞く事ができる良い情報交換の場となっており、サービス向上につなげている。	運営推進会議は、行事と同日に開催することが多く、利用者や家族も参加している。家族にオレオレ詐欺や防災についての事業所の取組みを説明したり、汚水の逆流防止等非常時の対応を一緒に確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月行政へホームの状況等を報告している。現状や今後の対応等の話し合いを持ったり、情報交換を行っている。	現在、併設の通所介護事業所と一諸にオレンジカフェの取組みを始めている。市担当者には、事業所の希望、考えを伝え、話し合いを繰り返している。開催したことで地域の新たな声が届くようになった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けて、勉強会を行っている。また、外部の講習会にも積極的に参加し、伝達講習を行う事で、職員全員が身体拘束への意識を高めている。	2ユニット合同の接遇・拘束委員会があり、具体的に事例をあげて対応を検討している。明らかな身体拘束はしていない。拘束につながるような発言が出ないよう、職員は連携し、場を離れる時には声をかけ合い見守りのすきがないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の具体的な行為、言葉使い一つからも虐待につながる事を常に念頭に置き、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会などに積極的に参加し、勉強会を行っている。必要な場合は、関係者と話し合いを持ち、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約や改定等の際は、書面を用いてしっかりと説明を行い、疑義が出た場合には回答をし、理解・納得して頂いた上で、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が自分の思いを気軽に話せる雰囲気作りを努め、傾聴している。ご家族様へは、管理者の他、本社相談窓口や行政等の窓口も伝えており、早急な対応を心掛けている。	家族からは、行事や運営推進会議、面会時等色々な場面で意見を聞くようにしている。個別面談ではなく、家族が話しやすいよう、一緒に何かをしながら、何気なく聞くようにしている。意見がたくさんもらえている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者等に報告・連絡・相談ができる体制作りを努めている。また、定期的にヒヤリングやアンケートを行って、問題があれば解決し、業務改善を行っている。	毎月業務に関する会議を実施している。毎回、各委員からの報告後、職員からも意見や提案を聞いている。会議への全員参加は難しい為、事前に用紙に意見を記入してもらい、全員が意見を出せるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社が認めた資格や研修については、出勤扱いの上、会社負担で受講可能としている。年間休日120日や、シフトの融通性をもって就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修等、計画的に参加できるようにしている。参加職員により施設内で伝達講習を行い、全職員の知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる研修会に参加し、その場で情報交換をしたり、その内容を施設に持ち帰り、職員会議でも話し合い、サービス質の向上に取り入れたりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の現地調査でアセスメントを行い、本人の困っている事・要望に対して、本人・家族と一緒にどのようなサービスを提供していくかを考え、安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族の困っている事・要望にも、できるだけ応えられるよう話し合いを持ち、小さな事でも相談・助言できる窓口(管理者)を設けている。また、家族会に参加頂く事で、家族同士の交流も持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族等が必要とし求めているサービスに対して対応できるかどうか、施設幹部職員会議を行い、対応できない事項についてはその理由の説明と他サービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は家族の一員である事を常に念頭に置き、「人生の先輩から学ぶ」意識を持つよう指示している。介護をさせて頂き、入居者様よりたくさんの事を学ぼうという姿勢を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事・家族会にはできるだけ参加して頂き、本人と一緒に時間を過ごせる機会を設けている。また、入居時には、ご家族様にも協力を頂く旨を説明し、その結果、通院などたくさんの協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が集まるような場所を散歩コースに取り入れたり、ご家族様の協力のもと、外出や外泊の機会を作って頂いたりしている。	近所に住む兄弟が、毎朝散歩の途中で顔を見に事業所に寄っているケースがあり、利用者は、来訪をととても楽しみにしている。馴染みの場所が遠い場合には、近くでその雰囲気にあった場所に行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が状況を把握し仲を取り持ち、利用者同士がレクリエーションや散歩を楽しんだり、共同作業をしたりと、和気藹々に暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族様が顔を出して下さったり、連絡を頂いたりしている。他サービスを利用する際も相談に応じたり助言等もやっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から思いや意向を汲み取ったり、仕草や表情から感じ取ったりしているが、それでも困難な場合は家族に協力頂いている。	入浴や夜勤の時は、利用者とゆっくり向き合える時間であり、会話の中から希望を把握して行事に反映することもある。暮らしの中で表情や様子を見ながら想像したり、家族の話から利用者を理解しようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から生活歴や環境生活などの情報を基に、ホームでも安心して生活を送って頂けるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化を見逃さず、早期発見できるように日頃から一人ひとりの状態を把握し、記録に残し確実に申し送りができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様からの要望や職員からの情報を基に一人ひとりのニーズに沿ったケアプランを作成し、定期的に評価を行っている。	ケアプランは、本人家族の希望を聞き、職員が意見を出し合って作成している。家族には、面会時に直接説明し、難しい場合は書面で郵送した後に、電話で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に様子やケアの内容・状態変化などを記入しており、申し送りや連絡ノートを活用・また、必要に応じてカンファレンスを行い情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて行政や地域包括支援センターに相談し、可能な範囲で利用者様が満足して頂けるサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や市内の行事に参加・ボランティアの訪問・民生委員の協力のもと、心豊かに生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科受診。週1回の歯科受診の医療支援を行っている。また、近隣の医療HPと本人ご家族様・事業所の連携も取れている。	かかりつけ医と提携医を選ぶことができる。かかりつけ医への受診は、基本家族対応であるが、職員が同行することもある。協力医は、グループホームに大変理解があり、細かく医療面の指示を出してもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護より日常の情報交換を密にし健康管理、指導を受けている。必要に応じて医師、家族、施設間での相談できる場を儲けている医療機関にも速やかに対応が出来てきている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーの提供・退院時には介護サマリー等を頂き情報交換を行っている。他、面会に出向いたり、HP相談員との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でのケア内容や急変時・緊急時の対応について、家族に十分説明を行い、職員間でも情報を共有し、スムーズに医師との連携が取れるよう努めている。	重度化したときの指針は、入居時に説明し、看取りに関するアンケートで家族の希望を把握している。具体的な対応方針は、医師の判断を下に家族と話し合って決めるが、説明のタイミングは、家族の気持ちを考えながら決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回、防災委員会を中心に応急手当や初期対応を行っている。また、地域の救命救急訓練に参加したり、普段から実践できるよう重ね工夫している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に参加の呼び掛けをし、年2回、消防署に協力を頂き、避難訓練を実地している。また、災害対策マニュアルを作成し、避難・風・雨の対策に全職員が取り組んでいる。	事業所の防災訓練は、毎月実施を目標にし、地域の防災訓練にも参加している。排水の逆流等以前の体験を教訓とし、対応方法を体験する機会を作っている。備蓄品は、点検し、すぐに使えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格も生活してきた環境も違うため、介護・支援の方法も異なる事を念頭に、入れ常に利用者の立場に立って対応するよう努めている。	援助が必要な時も、プライドを保てるようにしている。他利用者から「出来ない人」と思われないよう、あからさまに人前で介護をしたり、「さっきも言っていた」等の否定的な言葉掛けはしない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、ご本人の意思や希望を尊重している。また、うまく言葉にできない方には、仕草や表情から汲み取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを崩さないように注意をし、一人ひとりのペースに合わせてながらしたい事への支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服を選んで頂いたり、洗顔・整髪もご本に行って頂けるよう支援している。また、月に1回の訪問カットも髪型の要望を伺っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を調理し、職員と一緒に食事を楽しんで頂いている。食器洗いや食器拭き盛り付けなども利用者様交代でお願いしている。	アンケートを実施し、希望を行事やおやつ作り等に反映させている。収穫野菜を調理し、旬のメニューを話題にしながら食事を楽しむこともある。配膳や野菜のスジ取り等利用者も出来ることは一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせて食事形態を変えたり、水分摂取も利用者様の好みの物をお出ししたり、嚥下障害が強い方には、トロミアップしたり、食介回数を増やし、一日の目安量を摂取して頂くなど、工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人に行き、磨き残しがないか、職員が行っている。また、週に1度、訪問歯科により口腔ケア行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るように声かけ誘導している。全介助要する方でもトイレでの排泄していただいている。	できるだけトイレでの排泄が継続できるように、できない部分のみ支援している。ラジオ体操を毎日実施することで、利用者の下肢筋力強化・維持に効果がみられ、以前骨折した人もトイレに行けるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、散歩や体操など適度な運動をしたり、牛乳を勧めるなど、予防・解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認し、可能な限り本人の希望を優先し、入浴を楽しんで頂いている。	ゆっくり話を聞くようにしている。毎回一番風呂とはいかないが、1番風呂のように浴室をきれいに整えておく工夫をしている。入浴前に自分の着たい服を選び、着替えに時間がかかっても見守る自立支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に利用者様のペースで、休息・睡眠時間をとって頂いているが、昼夜逆転傾向の方については、日中の離床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が提携医から処方された薬を薬剤師から説明を受け管理している。利用者内服処方箋ファイルにて、薬の用法等全職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレク行事の中で嗜好調査アンケートなどで外食会や畑での収穫野菜を利用しその場で煮たり焼いたり楽しめる工夫をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調を確認し、天気の良い日は散歩や買い物に出掛けたり、家族の協力により外出の機会を作ってもらっている。	散歩や買い物に加えて、犬の散歩も日課である。利用者も犬の散歩仲間と話がはずむ。喫茶店にコーヒーを飲みに行ったり、お正月には初詣に出かける等、個々の習慣や希望に合わせた外出をしている。家族も参加するイチゴ狩りは恒例行事となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向を尊重し、家族と相談の上、所持して頂いたり、希望があっても難しい方はホームで管理をしているが、買い物では支払いをご自身で行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のあった場合は、家族の協力を得て電話をして頂いている。また、手紙や年賀状のやり取りもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り掲示物を入居者と一緒に作成し季節感を味わって頂いているトイレや脱衣所などの温度設定に注意し清潔で安全な空間作りに心掛けている	居心地良く過ごせるよう、座席に気を配っている。個々の椅子に杖置きを設置し、座ったままにならないよう配慮している。利用者は、季節感のある作品を職員と一緒に作り、居間と続いている台所から聞こえる調理音やニオイからは、家庭生活を肌で感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には、大きなテーブル・畳コーナーやソファがあり、気の合う仲間と話したり、一人で新聞や本を読んだりして過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇・愛着のある物などを配置し、ご自宅と同じような環境で生活して頂けるよう、配慮している。	個室は、自宅との違いによる不安を減らすため、個々の習慣に合わせた使い慣れた物を持ち込みしている。家具の配置は、本人、家族と相談し、安全を確保している。間仕切りを外し、夫婦で2部屋を共有できる部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には、写真や名前、トイレにはトイレの絵や文字を貼り、目で見確認できるようにしている。また、安全に過ごせるよう、動線を考えた家具の配置をしている。		